

芭蕉翁
吟句解

說叢大全

三



蕉翁發句說叢大全卷第三

葛飾

素丸 著述

同

南臺 檢校

夏部

かゝるきとちやくみ尺のあや草



云紹巴法眼秀吉公(連平)の秘事を是よりまづよ祭句

此仕立はすくくしとて多し五尺の何やめはまをさき
くまにひくく仕立家よりくみ説ありむ島月雪ハ京
物の一つ多しとて多し説ありてい母念の夏句はくみ尺の何や

まじりてし **袋林** 此句を出さず

説解 何れに接するに此句は元禄二年五月三日四日此の吟也。武隈乃松林事。初車のこまよ古めりしけき也。大槩を法とけり言いたるとけりかるる金さや。○板の李通物居みからの園よりけりて武く梅の松に二本で都くいふおと回り見きと答つんか梅奇やよよめると自漢しき梅が禅林寺大僧正深覺武く梅の松いふ本をみきといふ。よくうめるあはあぬふくし 右難和抄より かくもあはぬる武隈のこ也。○奥義抄云武隈の松といつてのせうりけりける梅もきく人い

いふし時とよもわくさきをねがつてのちりやありふとておいてはゆる也。け松い昔よりあつたけりて藤原元良と云ける人の任お館乃あよ始て植くる松也。陸奥の館い武隈と云所くありげり二夜く其園の任お成はるんしよあま言植くともき整やしんし武隈の松やつらひあひ足つる武隈のはあいの松ともあり重之集武く梅のはあつたる松も我うとせりりりらとやいきく武隈乃はかいたて山のさき物なるものある也云顯仲云藤原元良うと云く松野大いそりんし後満正う任よ植や後又うし道真う任よ植也後

孝義きりて橋小造家^ニ後^ニせやりのぬと^ニ 或古抄説也と新和
 あり ○句意ハ、松ハ^ハうき^ハさ^ハなる^ハ也。橋の^ハうき^ハなり^ハ旅立^ハや^ハ
 くも^ハ長途^ハ也。二月^ハ然^ハし^ハ。武^ハら^ハは^ハた^ハり^ハつ^ハき^ハう^ハと^ハ。
 娘^ハし^ハき^ハん^ハ何^ハり^ハ。養^ハ白^ハう^ハ。道^ハさ^ハら^ハう^ハと^ハ對^ハして^ハ。橋^ハより^ハと^ハり^ハふ^ハ
 又^ハふ^ハ字^ハハ、^ハさ^ハも^ハし^ハら^ハな^ハる^ハ也。一^ハう^ハき^ハん^ハえ^ハき^ハの^ハ拍^ハ子^ハ也。
 乃^ハら^ハき^ハり^ハふ^ハ。新^ハふ^ハ句^ハし^ハ。

許六本曾路小卦

○説 句選句解^ハも^ハ去^ハか^ハる^ハ韻^ハ塞^ハ兼^ハ
 小翁の詞出^ハハ、^ハた^ハら^ハう^ハ左^ハ妻^ハ論^ハ也^ハ、^ハ何^ハん^ハが^ハし^ハ

旅人のこゝろは死に似よ本曾此旅

此句ハ、白解^ハ不出^ハして^ハ。解^ハ何^ハり^ハ。傳^ハ寫^ハの^ハ也^ハ、^ハま^ハる^ハ也^ハ、^ハ解^ハ一^ハが^ハト^ハ一^ハ

旅の花はあつち少く似よ本曾此旅

此句ハ許六ガ韻塞^ハ不出^ハセリ^ハ。白選^ハよ^ハハ、^ハ今^ハ増^ハ補^ハ一^ハ也^ハ、^ハあ^ハの^ハ白^ハ解^ハ
 一^ハ新^ハと^ハ解^ハと^ハ混^ハと^ハる^ハ也^ハ、^ハ一^ハた^ハ乃^ハ説^ハ一^ハ引^ハ合^ハ也^ハ、^ハ熟^ハ覽^ハと^ハ一^ハ。

○解 云万葉よ旅小何也とけよりの版を原枕旅中あれ

此句の案^ハく^ハり^ハる^ハ旅^ハの^ハ案^ハく^ハ、^ハ之^ハ夜^ハ旅^ハき^ハれ^ハも^ハも^ハか^ハ旅^ハ人^ハ乃^ハ
 公の風流^ハか^ハれ^ハし^ハよ^ハと^ハし^ハ也^ハ、^ハ袋^ハ林^ハ 此^ハ句^ハを^ハ出^ハさ^ハし^ハ也^ハ

○説 一白^ハ出^ハし^ハ、^ハ解^ハ意^ハも^ハ亦^ハ融^ハ通^ハ也^ハ、^ハま^ハも^ハ旅^ハ人^ハの^ハ風

雅^ハし^ハよ^ハと^ハい^ハう^ハふ^ハぞ^ハや^ハ、^ハ無^ハ理^ハ無^ハ鉢^ハと^ハも^ハ磨^ハ一^ハ又^ハ川^ハ前^ハ。

かた^ハが^ハ里^ハ、^ハ是^ハり^ハと^ハも^ハ、^ハ旅^ハの^ハふ^ハ自^ハ由^ハな^ハり^ハ、^ハさ^ハ毎^ハを^ハふ^ハく^ハる^ハ。

上古^ハい^ハと^ハて^ハ、^ハ食^ハ物^ハを^ハ推^ハ櫛^ハの^ハ案^ハよ^ハり^ハる^ハこと^ハ、^ハ東^ハ雅^ハも

ら心。○ 句選并小句解竹醉日と題書と。是の何れも
會き小句。笈日記小云く大垣あり。画讚二句あり。如行
亭菊 種ありくさくさき 木因亭竹 陰くさくさ竹うさ 是竹
五月の節といふあり。と略らしと云く世に白竹を
画讚也。竹破日二句の類也。類ありて。○ 支考
古今抄中二あり。

画圖解

粽詰よりよきと云く新撰
陰くさくさ竹破日と書と云

右二章は画圖の解と云祖家ひく猿蓑の選場より。
此の面影をも一白に入集と云き也。とけ粽の句と云

と終る事一遺稿の長活ありしと云く思へ竹植る意句も
画圖に於きしと云會き也と云く孟宗の涙なり。と云
よき。竹破日と題あり。海く葉笠の歌。有聲の画
とも云會き。風流あり。此句前神虎の此れ句あり。笈日記大
垣の節と係る也。

象瀟一見

こいさわくのあや西施の合節の事



云象瀟のこいさ合歌の氣と深き句也西施を入るは彼云

夕もわくさくも海は波の集

林 云西行象瀉の極は波よりわけてまはるはあまの清り
中流のまはるを黄くはるは **解** 云因平を出一解を

説 **林** 志のよりいへあやまる也。西行の平は死のこころ也。白

選よ。西行極と題す。是も存よ。こころは清く海とのあり

を流る。西行極は法園の河まを西あり。海はりのは。岨我小

なり。象く西行極も。その河は海をさる也。かゝるも。不意

とて存するある也。信用し難し。 **解** 極よすむ記も。進む

も。節もやうく。海はと字も。記も。 **林** 并 **象瀉**

西行極めんと記す。予常に素龍が記せし。古板の要細乃

を考ふ象瀉の文段に云。むよの岸も舟をあらわむ

のうくともよあり。極の老本西行法師の記念をのこる江

上も佛陵あり。さくはるて。此句を。中時の句句をひたれ。何

とてあり。わゆるん。象瀉の極。諸集を。に

に。桃隣むつふも。象瀉の初め入り。其外の集も。又

通る。か。慥に證し。事なく。近年は。いぬ。ま。去

年。我門。安房の園。幽奥僧。故口の母。去。して。越後

の新瀉へ。報ける。時。誠。あり。翁の。み。跡。より。と。え。送。り。を

見。ま。る。志の。こ。こ。と。よ。み。移。ひ。り。古。き。極。も。い。ま。し。詳。述

とれまゝに詩を以て陰波を以てさるる夕たれいと涼しくも
さるる夕たれいと涼しくも此句有り右ハ越後の國新潟の内海
町ヨリ方々也 野仁菰 家裏とさるる也 爰において 始て胸を
けりり 何事も 廣く求むるにまゝいふ。○句意ハあま
のしほ 右木の 夏陰に 体らひて 夕晴の 涼地を さらす
花ぬえか けりり 風情いり けりり 涼のまゝいふと けり
けりり

夏まきしをたけひる川菰れむらふ

云是ハ菰才ハ陽子世人のいとむいさりの果報とて高心

のまゝにさるる夕たれいと涼しくも 一ツ菰れ 爰の 菰まきし けりり
あまのしほ けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり
菅根塔の澤或ハ鮎所 けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり
一ツ菰草也 句意ハ 枝有るのハ 枝みたり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり
ふたり けりり 一ツ菰れ けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり

説 例の入りけりり 迂遠也 定まらば 果報けりり けりり けりり

傍義也 聞がけりり けりり 風雅けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり

けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり

けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり

けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり けりり

定りきりしと。ハ是は系持難き也。去る。立去。こころ
 的。田一投。と。風情のまや。涼。い。い。立去。て。体ら
 い。と。此。立去。の。詞。も。存。れ。つ。い。あり。一。句。乃
 之。大。切。なる。こと。い。ふ。と。云。に。○ 奥の細道。と。なる
 に。清水。流。く。此。柳。ハ。戸。野。の。里。ゆ。り。て。田。の。畔。小。砂。は。此。前。の
 郡。守。戸。部。某。の。此。柳。又。せ。ら。と。お。く。小。の。終。ひ。す。え。る
 ち。ふ。つ。の。り。り。あ。や。と。い。ひ。を。今。日。の。柳。の。け。ら。と
 立。より。体。も。詞。也。り。と。句。ハ。立。去。る。と。有。
素龍千跡の古
本云ハ檢校ト 是。と。い。へ
 見。ゆ。ハ。立。去。ハ。最。初。乃。念。り。て。立。去。ハ。後。の。安。あり。と。知。る。と
 也。○ 十七句法云。作者不詳 此句摸寫變態格也。○ 宗瑞云。立。去。る

といふ。古今のま。い。て。立。去。ハ。一。語。ハ。い。つ。り。摸。寫。變。態。と。い
 へ。西。川。の。予。を。摸。寫。し。て。立。去。と。立。去。と。變。態。し。た。る。こと。也
 と。支。考。が。い。ふ。立。去。る。の。こと。也。用。家。の。摸。寫。の。也。變。態。也。
 考。影。略。互。頭。摸。寫。變。態。と。い。ふ。法。古。來。の。俳。諧。ハ。使。て。か。り
 中。比。を。成。り。て。立。去。り。い。り。立。去。り。不。事。と。前。也。立。去。る。法
 云。い。ふ。と。頭。然。し。り。後。代。初。書。の。も。小。序。か。り。し。り。い。り。
 此。一。語。也。○ 此。句。西。行。の。予。小。ま。い。り。と。い。ふ。一。語。也。若。此。の。柳。ハ
 卷。里。の。ま。い。り。つ。か。の。こ。め。て。證。説。古。往。し。り。ち。き。ま。す。也。画
 讚。の。予。也。西。行。繪。卷。物。一。冊。あり。古。板。也。西。行。の。繪。讚。と。い。つ。画
 と。致。し。て。此。と。い。ふ。こと。也。中。小。川。邊。の。柳。也。女。の。立。去

樹木よ。挿きて。満る。おし。ゆ。く。し。思へ。心。何。ん。人
い。か。く。も。世。ふ。い。り。り。り。扱。と。常。盤。本。持。不。易。し。り。
良材よ。と。あ。り。し。よ。を。あ。と。り。○句。選。は。或。人。の。山。影。よ。り。
て。ら。不。洞。名。地。と。御。心。の。句。下。を。さ。く。小。對。して。種。し。本。
く。称。美。す。下。條。核。抄。と。ん。南。は。原。と。あ。り。て。此。句。意。の。ゆ。え。に。
川。河。の。句。け。さ。り。を。ゆ。も。と。り。と。り。の。句。も。さ。ら。し。
知。る。し。

海に投ず別色をぬり麻の角

云々良し。故人小ぶる。時と有角の底。く。着。あ。れ。た。ら。ら。

？。た。ま。く。は。度。此。許。少。く。さ。か。の。麻。の。角。せ。し。ら。る。て。く。く。く。
一。久。く。か。り。寸。一。久。あ。り。の。麻。の。角。二。段。よ。あ。ま。り。生。せ。さ。る。て。り。
三。久。く。か。り。の。麻。よ。た。と。り。也。林。解。此。句。と。出。す。次。

説例の邪妄あり。一。久。く。か。り。の。二。段。の。角。の。り。て。り。
せ。さ。る。が。如。し。も。い。文。義。通。達。せ。し。は。詞。也。も。不。い。ぬ。し。句。選。は。
旧。友。よ。ま。さ。ら。め。し。不。保。と。い。り。句。い。麻。の。角。一。句。け。引。く。と。
已。に。春。の。節。み。入。り。り。是。は。麻。角。の。意。也。も。見。え。ぬ。少。や。二。段。の。
句。い。び。り。り。句。の。前。に。は。一。句。と。も。あ。り。り。○按。じ。り。り。り。
し。や。け。句。は。詞。也。と。り。違。へ。て。二。段。の。句。は。詞。也。と。り。り。り。や。
又。二。段。の。句。の。詞。也。と。り。違。へ。て。一。句。け。引。く。と。前。に。は。句。也。と。り。り。

とびて 漆あつうふ 越前 翁の 一の 越前也 毎度二白つり
すけり 粗多し 翁良より 杉風へ 文通也 翁の書や
翁良のいよく 其男振 翁の書や 翁良の書 古き 佛蓮二
白いよ 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書
の 改作の 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書
翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書

遠くいてよかひ屋がー 翁の書

林 云は向蕉翁句選小春の初小るもいさう 其は句小の法也
翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書

廿五本より 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書

翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書

翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書

翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書

翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書

翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書

翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書

説 源氏の詞を引る 大にわたり 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書

翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書 翁の書

儿夏多シ只ナミクノコトニアフスト思ヒ知ラル也 ○ 解
 所ノ言下ナクたひあかりか所下のちも亦あかりと云ルハカ
 以屋引の物なり等益ありといふも初輩の事也 俳材の物
 けりとも ○ 堀川百首肝要抄 貞徳作 才十よ 後すらすらり
 つら新編一つけいひやういひ水きまりり 貞徳江
 やう下れる頭昭の流い夏種をよせしんあまの上よ屋を
 て螢で飼ふをりといふ今も田舎多しと云つら 後成
 説ハ麻でよせしん馬の尾をのくは物なぬと云ふ田舎
 こと六百高れ手合ふ糸くみりり 五葉はかたひ屋の
 ぬ流し其多不叶是ハゆづけの上に屋をゆりてとて地

への火氣よりし奥をよせしやあし銅屋あつと云ふ ○ 今時
 冠字考少色 麻火屋小決し中 多いをりりりりりりりりりり
 下の方よりい免も角も俳諧ハ倍習ふ效ハは 螢飼りり屋
 ういやせいと いやとつふまづのも也 予 夏の部不入ハ紀行
 の時候也 予 依もの也 蓋ふはすすじかひやのみの異説あり
 多くありて 連歌の家より定めしは依中 其實ハ詳ありと
 色 中 古春夏よりよみしおろし屋の事なり 予ハ連歌ハ
 麻火屋の附白よ 別まつるま交枝の夕烟もいりりりりり
 ありしものもあき事なり 翁の句を依 夏よりいりりりりり
 初夏ありといふく 神夏の事なり 予ハ 附合の時ハ赤白

の風象のゆゑは田舎をさうらうと云ふ句の中へさうらうと云ふ句は
よほよほと云ふ句は

林解

此句をよほよほ

説 此註まづくはさうらうと云ふ句は注の妄説也。其州よ
かきうらうと云ふ句は○按じうらうは猿樂能を夫家よ。風俗と云ふ
風俗の十七八篇。只田舎をさうらうと云ふ句は狂言小田うらうと云ふ
句は都て上代あり。ゆゑに下へさうらうと云ふ句は。あはれみち
のくね田うらうと云ふ句は。賞さうらうと云ふ句は。一句のゆゑに能さ夫
狂言師の風俗のより出らん。翁の句は。底意は。何れと云ふ。一

ゆまへありて。其事をい限して。今日平。生。言。多。か。り。通。候。
ら。ゆ。や。あ。ま。句。作。る。事。玄。妙。也。

うの舞やうらうら柳は多げ哉

説 云是遠路を隔るる人の方へ挨拶也。其方の春味をゆゑの如く
の白く暖かきうらうと云ふ句は。我、柳のゆゑに春は用もあやうらうと云
は。このうらうを隔るる及び舞と云ふ句は。ばら熊魚人(傳文
かゝるめたる) **林解** 此句をよほよほ

説 一向の無理妄語。世人不用も亦也。爰く信どへし。句意
は。あきらのめし。其場の。即與と云ふ句は。禅語小柳暗花

明と云より、中と云也。挨拶もどしと云。盲人よむと云。白氏文集の
病蟲光鷲もどしと云。かして煩上素のうら。筆数小老の
らも吟もどしと云。尼ももどしと云。今魚の少くとも。其病
の俳諧もどしと云。為辨抄と併せん。

圓覺寺大願和尚こと〜 嵯日のけいの遷化

〜 後より〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜

漢角方〜 漢の〜

山々〜 漢の〜

袋 云梅とてと云り〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜

ひい彼和尚乃 遷化をす〜 漢の〜 **林解** 此句は出らん

○ **説** 注一向小ワの〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 諸集

少色。句選少也。梅とてと云り。梅とてと云もあ。我のみは風

新と。きじ〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜

梅の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜

四月の神〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜

梅の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜

時候〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜

梅とてと云。理屈不近う〜 ○ 白意は〜 色香の徳

〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜 漢の〜

ふりよ。歎きかたけしむ。あひあが。こい。廻向し。と云。松の
まへ。並み。お。ね。し。る。ま。ふ。も。り。と。ど。外。の。も。と。愛。ふ。し。け。り。と。有。
和。平。の。血。脈。和。語。乃。優。美。也。

藤の實の嫩滑小きん奇の種 花イ 跡イ

林 云此句ハ初夏ハ泊船集ハ秋の初小入。り。無。元。末。宗。祇。法。師。の
句。小。園。誠。し。て。ま。も。後。一。ろ。み。さ。の。右。の。句。と。流。句。う。て。か。く。中
ま。り。や。種。の。方。 **袋解** 此句と出。す。は。

説林 藤ハ。宗。祇。の。句。と。華。は。る。の。也。藤。の。実。中。後。に
し。く。河。邊。を。ま。も。定。し。し。り。や。種。の。實。あ。ら。ぬ。例。や。り。て。

まじ。小。の。中。夏。中。夏。も。と。き。に。在。都。て。實。れ。ま。き。ハ。夏。熟
一。た。る。ハ。村。と。は。季。立。の。公。道。と。し。林。中。と。る。ハ。泊。船。集。ハ
り。し。よ。を。誤。多。き。甚。だ。し。む。也。○ 句。選。小。後。ま。り。は。か。ど。り。は
く。し。花。ハ。宗。祇。の。む。し。小。白。ひ。て。と。し。河。邊。と。出。り。ま。り。宗。祇
の。句。より。出。く。一。種。し。ら。り。の。と。ん。也。○ 藤。代。沙。坂。ハ。紀。伊。國。の
名。所。藤。の。ま。り。と。し。古。亦。も。あ。ま。り。と。り。○ 此。句。意。音。の。種
と。云。こ。ろ。隔。り。中。の。よ。さ。え。種。し。り。や。俳。諧。の。種。と。ん
と。云。ん。也。言。曰。お。く。解。し。ら。ん。ハ。緩。急。と。ん。と。ん。外。の。堂。上
の。外。地。下。乃。い。ろ。ふ。き。お。わ。り。俳。諧。の。種。と。ん。色。お。お。り。と。
と。ん。と。ん。後。し。け。り。俳。諧。と。ん。の。別。よ。お。出。一。愛。し。て。世。小。奇。

増補

ゆふへふもあさもつらと瓜の花

○ 説 菊阿口傳よ云西行の歌に心性はさあつらと云つるを韻あり
人(よ)やあはゆる 雲花の河を舞ふさる始ゆり花のさけり
ゆふへふもあさもつらと瓜の花と云ふ夕顔の如き歌なり
と愛態しその作也

夏の月清油よりいづ赤坂の

同上長崎宇麻亭よりし此句を吟じて謔る宇麻いささすす
感入ぬ清油と赤坂の方十六丁あり馬次ありをさるるや
さいざり宇麻田翁の名人ありり感入ぬいささすす此
の句作らるるゆふへふもあさもつらと瓜の花と云ふ夕
顔の如き歌なりと云ふ中にも句作を吟ふといふ是れ
さすす云々ありと云ふも赤坂のさすす月と云ふ句作らる
夏の月履少ありと云ふも上理屈のやふさすすもあつら
乃理屈と云ふ事なり云

さすす 夏 月 履 少 あり と 云 ふ も 上 理 屈 の や ふ さ す す も あ つ ら

同上云々也。玉志亭少して納涼の集、瓜地りてかゝり
て、句を乞て曰、句を乞て、り、の、空、ふ、事、の、り、と、戯、ま、り、と、あ
と、り、ん、け、句、あり、玉志、出羽、庄、内、町、目、あり、此、芝、筆、の、一、軸、家、珠
と、い、ふ、云

① 句選小、な、て、少、も、刻、ら、ん、梅、め、や、き、ん、と、り、り、又、り、り、也
切、ん、梅、め、や、き、ん、と、り、り、傳、寫、の、誤、を、又、い、は、小、玉、り、り、と、り、り
少、也、不、詳、也、最、初、の、去、跡、や、は、是、ハ、元、祿、二、年、晚、夏、の、吟、也、○
曲、禮、曰、為、天、子、削、瓜、者、副、之、為、國、君、者、華、之、云、小、笠、原、殿
書、云、熟、一、乃、る、初、瓜、ハ、二、ッ、ハ、刻、又、横、切、多、く、と、さ、う、り、け、時、ハ、
刻、く、と、い、は、し、切、切、去、用、さ、し、ハ、又、刻、ら、と、い、は、和、漢、く、の、こ、と、也

禮河、是、祝、其、瓜、也、業、一、望、也、や、り、ん、梅、め、や、き、ん、と、り、り、也
一、梅、め、や、き、ん、と、り、り、

や、ち、ぎ、り、梅、め、や、き、ん、と、り、り、初、志、業

東西夜話曰、今、宵、狸、屈、の、論、河、り、先、師、の、は、今、ゆ、業、れ、大、切、也、ハ、
行、為、と、り、り、は、法、師、の、曰、也、り、何、某、實、相、院、と、い、は、山、伏、の、上、那
り、り、の、と、梅、め、や、き、ん、と、り、り、一、次、の、若、或、人、の、風、雅、の、狸、屈、や、た、り、り、
柳、り、り、梅、め、や、き、ん、と、り、り、一、次、の、若、或、人、の、風、雅、の、狸、屈、や、た、り、り、
心、を、さ、し、一、人、の、句、を、さ、し、り、り、と、い、は、し、云

